

ICT活用のためのリテラシー向上に関する検討会

# ヤフーの取り組みについて

Yahoo! JAPAN

# 本発表の概要

- **ヤフーにおけるリテラシー教育に関する取り組み事例**  
└事例紹介) ヤフーきっず、ネット常識力模試、Yahoo!ニュース健診、フェイクニュース対策等
- **リテラシー教育における指標について**
- **世代別の課題について**
- **補足資料**

# 【児童向け】 ヤフーきっずの取り組み

1997年11月4日に、  
社会貢献事業の一環としてサービス開始  
2022年で25周年

子どもの！

UPDATE

生き抜く力

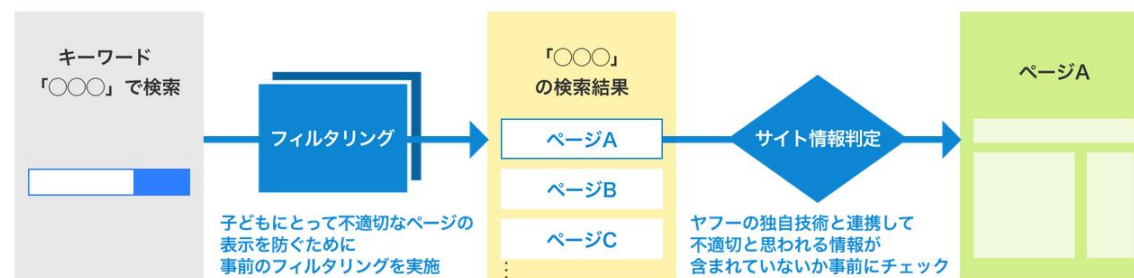
私たちYahoo!きっずは、  
未来を築いていく世代（主に小学生）に対し、**自分の人生を豊かにするための新しい知恵や術を身につけられる場を提供すること**  
により、**子どもたちが自ら学び、成長し、主体的に幸せになる力を会得し、将来のあらゆる可能性を広げることを実現します。**

# 子どもたちの学習支援となる機能を提供

The screenshot shows the Yahoo! Kids Japan homepage with a blue header containing navigation links like 'よみがなをつける' and 'ホームページに設定する'. Below the header is the 'YAHOO! きっず JAPAN' logo and several category icons: 学習 (Learning), 図鑑 (Encyclopedia), 今日は何の日 (Today's Date), ゲーム (Games), ポケモン (Pokémon), and ディズニー (Disney). The main content area includes a search bar with the text '気になる言葉を入れてみよう' and a 'さがす' button. Below the search bar are sections for '検索ランキング' (Search Ranking) and '注目のキーワード' (Featured Keywords). There are also promotional banners for 'Yahoo! きっず 2022 検索ランキング' and '12/20 プリの日' (December 20th, Pri Day).

## ● 独自の検索システム

通常の検索と同じロボット型検索に独自フィルタリングの検索基盤を構築。検索結果の充実と子どもたちの有害サイトへのアクセス防止の両軸を実現。



## ● 学年別よみがなツール搭載

学年別配当漢字をもとに、難しい漢字は「かな」に変換。

あなたはなんねんせい？ ボタンをおすとひょうじされているぶんしょうやもじによみがながつくよ

1,2ねんせい

3,4年生

5,6年生

中学生

×ツールをつかわない

## ● ソフトキーボード搭載

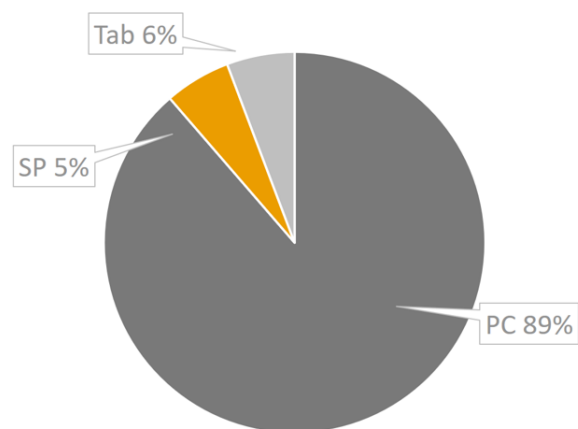
キーボードのタイピングに不慣れなお子さま向けに、マウスで言葉を選択できるキーボードを用意。



# ヤフーきっずは、全国小学校の7割で授業に活用

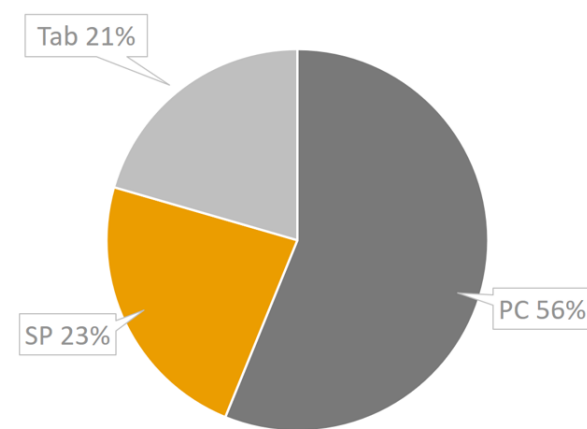
項目	平均PV/月	平均UB/月
全体	9,071万	307万

平日DUB



平日は圧倒的に**PC利用が多い**  
また、**学校の時間帯**にアクセスが集中しており、主に使われているコンテンツは**検索、学習**コンテンツ

休日DUB



土日は平日に比べて**PC利用の割合が減少**  
また、アクセス時間は一般的な朝～夜の行動時間で、主に使われているコンテンツは**ゲーム**



# ヤフーきっずのリテラシーに関する取り組み

教育現場

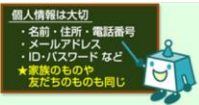
家庭

## 基本的なネット利用ルール

### インターネット 5つのルール

#### 1. 知らない人に自分の名前や住所などを教えないこと

自分の名前、住所、電話番号、SNS（※1）やオンラインゲームのアカウント情報（※2）などは、大切な個人情報です。知らない人に絶対に教えてはいけません。またインターネットには、実際とは異なる性別や年れいを言っている人もいます。ネット上で知り合った人に気軽に会うことは危険なことです。もし「会おう」と声をかけられるようなことがあれば、必ず信頼（しんらい）できる身近なおとなに相談しましょう。



- ※1 SNS：友だちや家族とメッセージを送りあえるサービスのこと。
- ※2 アカウント情報：パスワードやIDのこと。

#### 2. 知らないサイトには注意すること

ネット上にはたくさんの情報があります。しかし、内容がまちがっていたり、見ることでイヤな気持ちになってしまったりするページもたくさんあります。思わぬトラブルにまきこまれるまいよう、初めてアクセスするページには十分注意しましょう。もし少しでも「おかしい」と感じたときには、軽い気持ちでボタンをおさないこと、先生やおうちの人にすぐに相談することが大切です。



☆思わぬトラブルにまきこまれる可能性のあるページの例

- ・サイトの使用料として、高いお金をはらうように書いてある
- ・気分が悪くなるような画像や動画がのっている
- ・人の悪口が書いてある

## 情報への接し方

### 1. だれ？ 情報の発信元を確認しよう！



インターネットの世界は、いろいろな団体や個人が、情報を発信したり、自分の考えや意見を自由に表現したりできる場所。情報を集めるときには、その情報はだれが発信しているのかを確認する必要があるんだ。公共の団体や社会的に信頼のある企業が発信している情報かな？ それとも個人がその人の意見を発信している情報かな？ 発信している人や団体が、どんな人たちかを知ることはとても大切なことなんだ。正確な情報を見分ける力をしっかり身につけておきたいね。

### 2. どんな情報？ 情報の内容を見比べてみよう！



同じテーマのサイトでも、「説明がちよっとちがうみたい……」調べていて、そう思ったことはない？ その情報は、多くの人たちに事実を知ってもらうための情報かな？ それとも個人の意見かな？ 情報を発信している人が、どんな目的で発信しているか考えてみよう。また、参考している本や雑誌などの情報があるかどうかを確認したり、ほかのサイトと見比べて信頼できる情報かどうかを確認することも、とても大切。よくわからないときには、新聞や本など、ほかの情報とインターネットの情報を比べてみることも重要だよ。

### 3. いつ？ その情報の「更新日」を確認しよう！



時間をかけて探した情報も、読んでみると古い内容でがっかりすることがあるかもしれない。サイトの情報の新しさは、内容を最後に確認したり、追加した日を表す「最終更新日（さいしゅうこうしんび）」を参考にしよう。ただ、歴史など情報の分野によっては、内容が昔から変わらないものもあるから「ページが古い＝ただしくない」とはいえないんだ。キミの知りたい情報は、日々新しく変わるものかな？ 変わらないものかな？ 知りたい分野によって上手に見分けていこう。むずかしいときは、先生やおうちの方に相談してみよう。

## 学びのコンテンツ提供



動画



ここからだを学べる  
特設サイト「ココカラ学園」



ゲーム

# 【全世代向け】 ネット常識力模試の提供



<https://net-literacy.yahoo.co.jp/>

SNS利用、フェイクニュース対策、インターネットショッピング、セキュリティ対策などの幅広いジャンルからインターネットを利用するうえで身につけておきたい基礎知識やよくあるインターネットトラブルへの対応を学べる問題を全15問出題



■ 延べ受験者数  
2021年、2022年 2回合計で  
**114万人**受講

# 【全世代向け】Yahoo!ニュース健診の提供



<https://news.yahoo.co.jp/kenshin/>

インターネットやSNSの普及などによって手軽に多様な情報を得られる環境においては、デマや誤情報などを誰でも目にする可能性があり、情報を正しく読み解くことや、確証のない情報を安易に拡散しないことなど、ユーザー個人の情報判断力を向上する必要性が高まっていると考え、自らの情報摂取における健康診断コンテンツを提供。

■ 延べ受験者数

2022年2月～5月

**11万人**受講

平均正答率：約81%



Youtuber四千頭身、ブレイクスルー佐々木と連携



# Yahoo!ニュースアプリ閲覧傾向ログ機能



ユーザー自身がどんな記事を読んでいるのかログを可視化する機能を提供。特定ジャンルのみ閲覧していないかを情報健康度をチェックできる。

どのようなアクティビティだったかレベルで表示し、曜日別で何本の記事を読んだか、コメントなど別機能へのアクションログも確認できる。

# 【全世代向け】 フェイクニュース対策



これまで中学 2 校、高校 3 校延べ 15 クラス、短大、  
大学 11 校、社会人講座 3 回およそ 2000 人が受講

製作したコンテンツは授業に活用。授業で得た FB をコンテンツに活用させる

「フェイクニュース」  
不確かな情報に惑わされないために

Yahoo! ニュース オリジナル

「フェイクニュース」への備え～デマや不確かな情報に惑わされないために～

ビジュアルで知る 2021/09/21(火) 17:00 配信

2016年のアメリカ大統領選をきっかけに、近年「フェイクニュース」が大きな社会問題となっている。日本においても、新型コロナウイルスに関連して「大きく息を吸って10秒間息を止められたらコロナには感染していない」「トイレトペーパーがなくなる」「ワクチンを接種すると不妊化する」といったデマや誤情報が流れるなど、私たちの身近な生活にも影響を与え始めた。インターネットの発展に伴って、SNSやメッセージングアプリなどコミュニケーションツールが多様化し、不確かな情報やデマ、意図的に作られた偽情報などが直接手元に届くようになったいま、私たちが日常的に触れている情報の信頼性が問われ始めている。「フェイクニュース」とは何か？ 一人ひとりができることは何か、現状と対策を探る。（監修：国際大学GLOCOM准教授・山口真一、ジャーナリスト/メディアコラボ代表・古田大輔／映像制作：macca／映像協力：琉球新報社、熊本県民テレビ／Yahoo! ニュース オリジナル 特集編集部）

専門家の監修を受けてフェイクニュースの基本的理解と  
備えに関するコンテンツを制作

# 【全世代向け】 フェイクニュース対策



製作したコンテンツは授業に活用。授業で得たFBをコンテンツに活用させる



専門家の監修を受けてフェイクニュースの基本的理解と備えに関するコンテンツを制作

これまで中学2校、高校3校延べ15クラス、短大、大学11校、社会人講座3回およそ2000人が受講

## 授業での知見、コンテンツはYahoo!ニュースや検索で繰り返し活用

### ビジュアルで知る

グラフィックや没入感のある表現でニュースをわかりやすく・興味深く伝える。Yahoo!ニュース 特製のビジュアルコンテンツシリーズです。



車椅子ユーザーはなぜ一人で電車で乗れないのか——駅と電車が抱える課題を解決するには？  
9/29(木) 10:30



「フェイクニュース」への備え〜デマや不確かな情報に惑わされないために〜  
9/21(水) 17:00



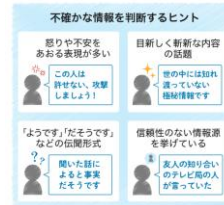
派閥政治の終わりの始まり？ 選抜の自民党総裁選——鍵を握るのは110万人の「世論」  
9/17(金) 10:30



タテ？ヨコ？スマホで変わるマンガ表現  
9/9(金) 10:30



「ライオン逃げたってなってるけど」みたいな  
9/17(金) 10:30



山口 真一  
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授



古田 大輔  
メディアコラボ代表 / ジャーナリスト



デジタル推進局長  
稲本 匠さん



## 22年参院選に向けたリテラシー特集



誤情報に惑わされないために

選挙期間中はさまざまな情報が飛び交います。なかには真偽不明なものもあるかもしれません。偽情報、誤情報などのデマに惑わされないために、以下のような点に注意しましょう。

情報のどこを見る？ チェックリスト

### デマに惑わされないためのチェックリスト

その1：情報源を確かめる

→どこから出てきた情報？ 誰の発信？



その2：情報が発信された日を確認する

→最初に発信されたのはいつ？



その3：意見なのか事実なのかを確認する

→誰かの意見？ 引用や伝聞形式の中身は事実？



その4：複数の情報源で見比べる

→公式情報や他のメディアはどう伝えている？



## ビジュアル図解でわかりやすく解説→ヤフートピックスで活用

### インターネットの特徴

**特徴①**  
あなたの「見たいもの」ばかりが掲載されているかも？

**特徴②**  
「みんなが」注目している記事ではなく「あなたが」注目している記事が掲載されているかも？

**特徴③**  
表示順が上位であるほど情報が正確とは限らないかも？

画像制作：Yahoo! JAPAN

### 選挙におけるデマの傾向

**傾向①** 選挙前にニュースメディアを装ったサイトが現れる

運営会社や問い合わせ先が正しいか確かめる

**傾向②** 政党や候補者の勢力が拮抗するとフェイクが増えやすい

喜怒哀楽に直接訴える情報に警戒する

**傾向③** 自分の考えに合っていると騙されやすい

偏りに注意し、多様な情報源を確認する

画像制作：Yahoo! JAPAN

## 情報摂取時のリテラシーについて有識者による解説→ニュース等で活用

選挙の「フェイク」に備えるために～フィルターバブルと確認バイアス～

2018年沖縄県知事選で起きた内容をもとに、「フィルターバブル」と「確認バイアス」について動画で解説します。（視聴時間：約8分）



情報偏食と吟味思考～情報を読み解き、見極めるために～

東京大学教授の島海不二夫さんが情報空間の特性を解説。さらに、長年リテラシーの学びを实践してきた白鷗大学特任教授の下村健一さんが情報を見極める手法について紹介します。（視聴時間：約10分）

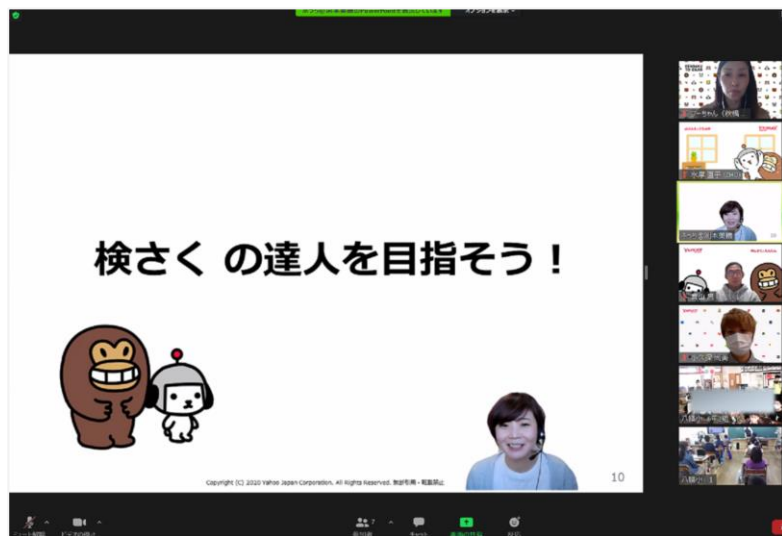


ファクトチェックと情報リテラシー～事実を確かめるための基礎知識と心構え～

ジャーナリストの古田大輔さんが、ファクトチェックとは何か、そして私たちができるファクトチェックについて紹介。国際大学准教授の山口真一さんは、情報を見極める力、リテラシーを身につけることの重要性を解説します。（視聴時間：約11分）



# そのほかのリテラシーに関する取り組み



ヤフーの地方拠点カスタマーサポートセンター従業員による  
**学校現場での検索、リテラシー向上  
のための親子向け授業を開催**

検索に関する授業や、子供たちを守るインターネットセーフティの授業を提供。素地を学ぶ機会を提供。ベースがあることで、自らが情報収集をし興味関心の視野を広げることができるようにサポートする。



地方拠点従業員による講師派遣事業を展開



# 教育啓発の効果測定について

よく用いられてきた指標

参加・閲覧  
人数



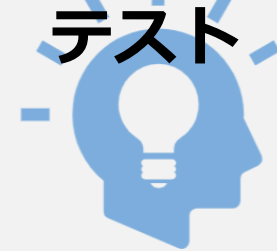
実施回数



事後  
アンケート



理解度  
テスト



その場の「反応・学習」を測定

目指すべき成果と指標

目指すべき成果：受講後、受講者の行動が変化したか = **行動変容**

その後の「実行・成果」を測定するにはどうすべきか？  
どこまで行動が変容することを目指すべきか？

# 実施した研究、実践と課題

測定方法

## 教育啓発等の評価指標モデル

子どもたちのインターネット利用について考える研究会  
第4期、第5期（2012年～2014年）

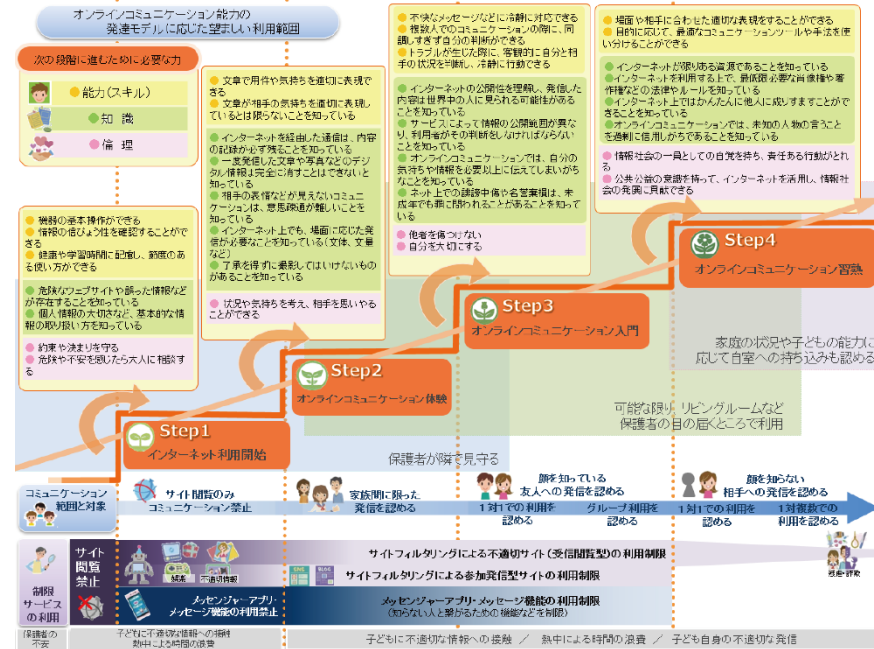
- ・ 行動意図（～したい）や行動（～する～した）に影響を与える要素  
→社会心理学における行動変容するまでの論理を調査
- ・ 変化を現実的に把握するための手段として、行動意図の測定に着目  
→啓発現場での実践と指標を用いた設問の開発を実施

必要な力

## 利用に必要な能力のモデル化

子どもたちのインターネット利用について考える研究会  
第6期（2014年～2015年）

- ・ 子どもの成長過程を4段階に分け、一つの段階を成長する毎に利用範囲を少しずつ拡大する「段階的利用モデル」をアップデート
- ・ オンラインコミュニケーション能力を支える要素を「能力（スキル）」「知識」「倫理」に区分し、コミュニケーションを取る相手別に「求められる力」を整理・具体化



### <得られた知見、成果>

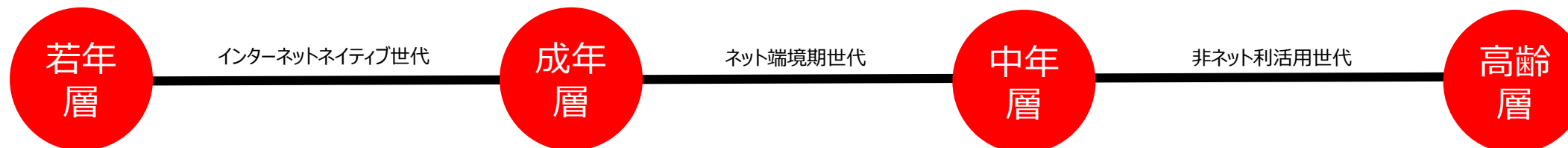
- ◆ 教育啓発が目指す効果と効果測定で意識すべき項目の考え方を整理し、啓発活動を行う際の普遍的な軸を持つことができた
- ◆ 子どもたちのネット利用範囲を広げる際に必要な能力の考え方を、保護者向けにわかりやすく伝えるツールを広く提供することができた

### <今後の課題>

- ◆ 多様化、多層化する「インターネットユーザー」が身につけるべきスキルの指標化  
→これからの時代に必要な力と育成手法の整理

# 世代別のリテラシー課題について

現状の日本国内におけるスマホ利用者数を考えると、対策の基本は全世代がオンラインが基本と考える。  
日常的に使うサービスにおいて、いかにきっかけを提供するかを考え、きっかけの流通導線を整備する必要がある。



オンライン  
で提供

YAHOO! JAPAN きっず\*

児童向け  
サービス

YAHOO! JAPAN ニュース

ニュースなどユーザー数が多い既存サービス内でのリテラシー向上機会の提供

ネット常識力模試

Yahoo!ニュース健診

フェイクニュース対策

UPDATE JAPAN ヤフーのCSR

教育現場や団体にむけた出前講座による学びの機会、きっかけ作り

ネットリテラシー授業

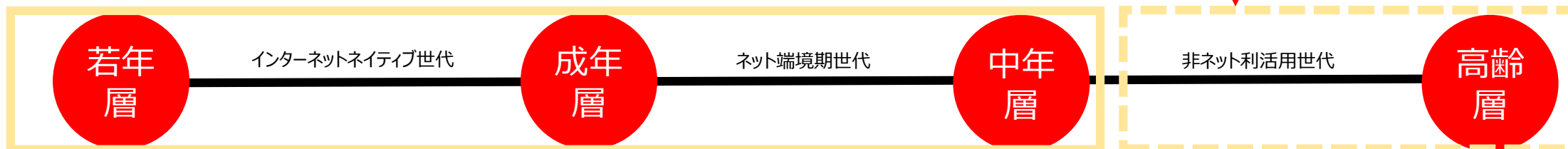
情報リテラシー授業

オフライン  
で提供

# 世代別のリテラシー課題について

現状の日本国内におけるスマホ利用者数を考えると、対策の基本はオンラインと考える。  
日常的に使うサービスにおいて、いかにきっかけを提供するかを考え、きっかけの流通導線を整備する必要がある。

## ① 家庭内でのネット利用リテラシー向上



## ② 高齢家族に働きかける

YAHOO! JAPAN ニュース

ニュースなどユーザー数が多い既存サービス内でのリテラシー向上機会の提供

ネット常識力模試

Yahoo!ニュース健診

フェイクニュース対策

UPDATE JAPAN ヤフーのCSR

教育現場や団体にむけた出前講座による学びの機会、きっかけ作り

ネットリテラシー授業

情報リテラシー授業

YAHOO! JAPAN きっず\*

児童向け  
サービス

オンライン  
で提供

オフライン  
で提供

appnedix



子どもたちのインターネット利用について考える研究会（座長：お茶の水女子大学 教授 坂元 章）は、子どもたちのインターネット利用をより豊かで安全なものにすることを目的として2008年に設立された研究組織です。さまざまな課題について調査研究を行い、保護者・行政・関連事業者に向け、整理された情報を提供しています。

## オンラインコミュニケーション利用の段階的利用モデル – 利用は発達段階に応じて段階的に

「段階的利用モデル」では、子どもたちがインターネット利用及びオンラインコミュニケーションを始める際の望ましい手順や身につけるべき能力を取りまとめています。

「段階的利用モデル」の大きな特徴の一つは、「子どもの発達」が段階になっている点です。同じ学齢の子どもでも、「能力（スキル）」「知識」「倫理」は人それぞれです。そのため、本モデルでは保護者が「自分の子どもがどの段階なのか」を各段階の「必要な力」で挙げられている項目について、それができるかどうかを判定することで、子どもの発達段階にあわせた理想的な利用の仕方や次の段階に進むための必要な指導が分かるようになっていきます。

[https://www.child-safenet.jp/material/guide06\\_model/](https://www.child-safenet.jp/material/guide06_model/)



## 乳幼児とスマホ 保護者のためのセルフチェック – スマートフォンで手軽に自己診断できるウェブサイト

乳幼児とスマホ  
保護者のためのセルフチェック

ご家庭での使い方についてカテゴリごとにチェックしてみましょう。

A 機器利用の時間や場面について

B 情報の内容と保護者の関わり方

C 機器の与え方

D 保護者自身の知識や使い方

制作：子どもたちのインターネット利用について考える研究会  
Copyright (c) 子どもたちのインターネット利用について考える研究会. All rights reserved 2018

2017年3月に公開した「未就学児の情報機器利用 保護者向けセルフチェックリスト（3歳から6歳）」を元に、スマホ育児の適切さをスマートフォンで手軽に自己診断できるウェブサイトを公開しました。「機器利用の時間や場面」「情報の内容と保護者の関わり方」「機器の与え方」「保護者自身の知識や使い方」の4領域に関する計16問の質問に答えることで、現時点での各家庭の取り組みの適切さがかたんに自己診断できます。研修会などでもご活用ください。



<https://www.child-safenet.jp/selfcheck/>

インターネット利用に必要な力は、保護者が子どもに寄り添いながら育てていくことが不可欠です。子どもネット研は、子どもを護り育てる保護者を引き続き支援して参ります。

運営体制：  
事務局：ヤフー株式会社、ネットスター株式会社  
アルプス システム インテグレーション株式会社  
運営支援：ポールトゥウィンホールディングス株式会社

ネットセーフティ教育プログラムは、インターネットの安全な活用のための教育啓発講座に、講師として登壇できるネットセーフティ・インストラクター、学習機会の企画・開催や周囲の相談に応じられるネットセーフティ・アドバイザーを認定するプログラムです。

利用機器の多様化や利用開始の低年齢化などが進む中、利用者のリテラシー向上を目的とした教育は、全国各地で活発に行われています。しかし、こうした教育事業を遠隔地からの講師招致だけで乗りきることが、長期的には難しく、教育・啓発の担い手となる人材を育成し、地域の状況に合わせた教育・啓発活動を推進できる環境を自ら整備していくことが大切です。

そこでSIAでは、専門家会議「子どもたちのインターネットについて考える研究会」との連携により、人材の育成や知識・スキルの認定、活動支援などを行うネットセーフティプログラムを提供し、地方自治体の課題状況に応じたカリキュラムやコースを提案し、課題解決を支援します。

▶ ネットセーフティ教育プログラム：<https://www.saferinternet.or.jp/edu/>

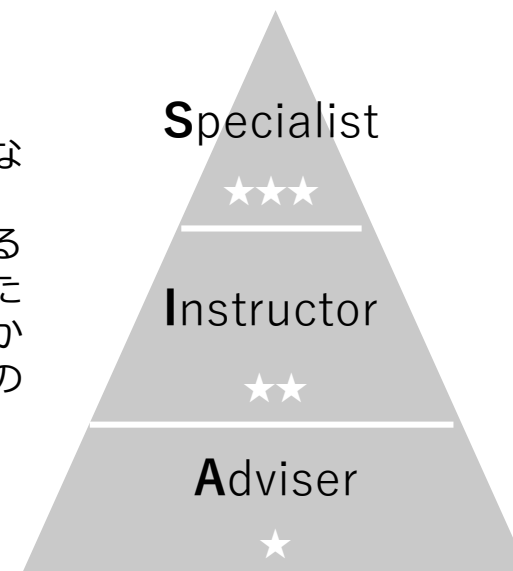
## 受講者の声



消費生活相談員としてインターネット利用に関する啓発講座の講師を務める中で、専門的な勉強をする必要を感じたことが受講のきっかけです。

ネットの利用状況についてのデータ資料がまとまっていて、わかりやすく、現状把握をするという点でよかったですと思います。例えば、高校生がインターネットで学習するとき感じたことや大人のSNSの利用傾向など、意外と自己認識と現状では違うこともあることを気づかされました。また、トラブルの背景やその対処、助言について具体的な提示があり、活動の際に有用だと思います。

▶ 受講者の声はこちら [https://www.saferinternet.or.jp/edu/list\\_of\\_certified/](https://www.saferinternet.or.jp/edu/list_of_certified/)



EOF